原材料費の高騰受け、インドの酒類メーカーがテランガナ州で値上げを要請

Allied Blenders、Radico Khaitan、Tilaknagarが、包装資材・穀物・エネルギーのコスト上昇を受け、州ごとに価格改定を要請

2026年11月16日（月）



包装資材、穀物、エネルギーのコスト上昇で利益率が圧迫されるなか、インドの酒類メーカーは複数の州で値上げを求めており、交渉の焦点の一つとしてテランガナ州が浮上していると、The Hindu BusinessLineが11月15日に報じた。

同紙によると、価格改定を求めている企業には、Allied Blenders、Radico Khaitan、Tilaknagarが含まれる。各社の動きは、インドの蒸留酒メーカーが直面する根本的な問題を反映している。コストは急速に上昇する一方、小売価格はそう簡単には引き上げられない。多くの州では酒類の価格が厳しく規制されており、メーカーがコスト増を消費者に転嫁するには政府の承認が必要だ。

そのため、主要原材料の価格が上がると、酒類メーカーはその影響を受けやすい。ガラス瓶、紙箱

などの包装資材は、製造コストの大きな部分を占める。穀物などの農産物原料も値上がりする可能性があり、エネルギー価格は製造、瓶詰め、輸送にも影響する。こうした圧力が複数同時に生じれば、影響は大きくなり得る。特に、価格競争力を強みとする大量販売ブランドでは、その影響が顕著だ。

今回の協議では、テランガナ州が中心的な位置を占めているようだ。インドの蒸留酒事業では、州の決定が大きな影響を及ぼすことがあるため、これは重要だ。酒類は州単位で規制されており、市場ごとに承認手続き、税制、小売制度が異なる。大規模な州で有利な決定が得られれば、その州での利益率維持に役立つが、ほかの州にも自動的に適用されるわけではない。各社はしばしば、州ごとに価格改定を求める必要がある。

問題は、単に店頭価格の引き上げを求めることにとどまらない。多くの飲料メーカーにとって、上昇する原材料費をどこまで回収できるかは、マーケティング、流通、新商品の開発にどれほど投資できるかを左右する。価格改定が長期間先送りされたり認められなかったりすれば、メーカーはコスト増を吸収するか、収益性の低下を受け入れるか、製品構成を見直さざるを得ない可能性がある。その結果、上場大手と地域の中小メーカーとの競争環境が変わることもある。

インドの飲料市場で最大級の分野の一つである蒸留酒では、こうした圧力が特に重要となる。価格に対する州の規制は、インフレに企業が対応できる速度を制限し、利益率や事業拡大計画、競争にも影響を及ぼし得る。今回の協議の行方は、より広い飲料業界からも注目される可能性がある。一部の市場で同様の規制上の制約を受けるビールメーカーや、ほかの酒類メーカーも含まれる。

値上げが認められれば、消費者にとっては小売価格の上昇につながる可能性が高い。一方、州政府にとって判断はより複雑だ。酒類はインドで重要な税収源だが、価格改定には政治的な配慮も伴う。州政府は消費者の反応やインフレへの懸念、税収面の考慮と、現在の価格水準がもはや製造コストを反映していないという業界側の主張を比較検討しなければならない。

今回の企業が全国一律の値上げを求めているとは報じられていない。むしろ、地域ごとの交渉や市場環境に基づいて手続きが進められているようだ。これは、規制の違いがブランド力や需要動向と同じくらい重要になり得る、インドの酒類業界の分断された構造を反映している。

今回の値上げ要請は、原材料費の変動に対する同業界の脆弱さも改めて浮き彫りにしている。販売数量が安定していても、州政府の承認価格が長期間据え置かれれば、利益は圧迫される可能性がある。そのためメーカーには、特に包装資材、原材料、エネルギーの値上がりが複数の商品ラインの収益を損ない始めたとき、定期的な価格見直しを求める強い動機がある。

州政府が値上げを認めるか、認める場合にどの程度とするかによって、今後数カ月に蒸留酒メーカーが得る恩恵の大きさが決まる。現時点で、The Hindu BusinessLineが報じた交渉は、コスト上昇がインドの酒類メーカーにとって依然大きな課題であり、州単位の価格政策が今なお業界を左右する最重要要因の一つであることを示している。